

おぢか



こうみんかん



平成29年
7月10日
第128号

山学校で科学実験教室を開催しました！



←なぜペットボトルはかへこんでしまったのか？

←入熱した空気を水に入れ実験の結果に皆さん思わずビックリ！



←なぜ吸盤が外れないのか？

6月18日(日)、離島開発総合センターにおいておぢか山学校「科学実験教室」を開催しました。今回は「空気の色を感じてみよう。」をテーマにペットボトルや空き缶、ゴムシートなどを使って参加者の皆さんに空気の色を体験してもらいました。参加者の皆さんからは「ゴムシート1㎡に1kgの空気がのっていると聞いてびっくりした。」「なぜ缶が潰れるのか気になった。」などの感想をもらいました。

熟年大学、長寿寺にて説法を聞く。

→興味を引くようにわかりやすく講演を行いました。



7月5日(水)、木場の長寿寺において熟年大学第3回講座「若き住職の説法を聞く。」を開催しました。

柳原住職からは、お釈迦様が実在した証拠やお釈迦様の本名が「ゴータマ・シッタッタ」であるなど思わず「へえ～」と言いたくなる話、お釈迦様が生まれた場所に関するインドとネパールの思わず笑い声がこぼれる話、日本人の持つ仏教観に関する深い話等をわかりやすく聞くことができました。

参加者の皆さんからは「仏教についてもっと勉強したくなった。」などの感想をいただきました。

柳原住職、本当にありがとうございました！

←参加者の皆さんも住職の講演に聞き入っています。



～図書館からのご案内～

== 新しく入る本 ==

[一般書]

- ◆超一極集中社会アメリカの暴走
- ◆ある日うっかりPTA
- ◆病気になったとき体の中で起きることが見える本
- ◆ズルい食品 ヤバい外食 ー知らないといけない！ー
- ◆洗車のテクニック&メンテナンス
- ◆毎日おしゃべりに暮らすクローゼットのルール
- ◆夢をかなえるノンシュガーパフェ ～ムジで簡単な魔法のデザート～
- ◆まるごとわかるトマト ー基礎知識、栽培技術、国内品種から野生種まで完全網羅ー
- ◆メンタルトレーナーが教える子どもが伸びるスポーツの声かけ
- ◆俗語入門 ～俗語はおもしろい！～
- ◆7番街の殺人
- ◆サイレント・マイノリティ ー難民調査官ー
- ◆か「く」「し」「ご」と
- ◆御徒の女
- ◆素敵な日本人 ー東野圭吾短編集ー
- ◆僕が殺した人と僕を殺した人

[小林 由美]
[杉江 松恋]

[河岸 宏和]

[今井 洋子]

[辻 秀一]

[米川 明彦]

[赤川 次郎]

[下村 敦史]

[住野 よる]

[中島 要]

[東野 圭吾]

[東山 彰良]



課題図書の出しについて

8月末まで、貸出しの制限をしています。

★【貸出点数】 本人のカード で、一人 1冊

★【予約点数】 一人 1冊

貸出期間の延長はできません！

暑い時期 ご用心！

ご注意ください！(本はとてもデリケートです)

★暑い場所に、本を放置しないでください！
本が膨らんで変形してしまいます。

- ◆車の中 (短時間でも 膨らんで変形します)
- ◆家の中 (窓際や縁側など陽が当たる場所)

一度変形した本は、元には戻りません。大切に扱ってください。

遊遊句抄

兼題 入梅 栗の花 目高 (めだか)

天からの恵のシャワー梅雨に入る 姜リリー	入梅や傘をつえにし町歩く 利石	水槽のめだかをそっとのぞく猫 小梅	葉の揺れて隙間すまに栗の花 ハンズンも泳げば都めだかかな 一穂	梅雨入るも前線さらに南下中 栗の花夜来の風の散らしよう 月歩	頑固爺過去は優しき栗の花 一強のめだか独裁怖き世に 値賀助	入梅や草木に沈む終の宿 蹲踞で命を尽くす目高かな 虫砂男	御初穂に願かけて待つ梅雨の入り おったとねチリリン川のメダカたち 紫紅	入梅や机上に菓子煎餅 栗の花おりおり想う若き君 香松	梅雨の入りオラシヨの声や資料館 濡垂れてほのかに匂ふ栗の花 松月	庭半分天よりの鬚栗の花 キリシタン潜みしごとく目高生く 松月
-------------------------	--------------------	----------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	---	----------------------------------	--	--------------------------------------

サークル訪問記

劇団とんとを訪ねました。



誕生は文化連盟の発足時だそうですから、なんと42年前。連盟の中に演劇部門がないということで有志が集まり、小値賀に演劇の風を吹かそうと結成しました。

「とんと」の命名は、スペイン語で「トンマとかマヌケとかアホとか」の意味で、「馬鹿になりきろう。」という当時のメンバーの思いが込められているようです。

現メンバーの方に加入の動機・きっかけを聞きました。「照明係を手伝ってと誘われて、いつしか舞台上に立ってました。」

「小値賀のみなさんに笑ってもらおうと思って・・・」
「キャストが体調崩して、ピンチヒッターで出てそのまま・・・」
といろいろでした。

ズバリ、演劇の魅力を訊ねると
「笑ってもらったり、泣いてもらったり・・・見ている方の反応が快感です。」

「見てくれた方が、面白かったよ。とか、良かったよ。とか言ってくれるのがうれしい。」
「役になりきることで、自分とは違う人間や動物として生きることができる。誰にも変身願望があるのでは・・・。」
ということでした。

活動上の悩みはというと、メンバーが少なくて演目が限られてくること。新入部員、年間通して大募集中です。そのためのひと言PR・・・

「子どもたちをはじめ多くの町民の方から喜んでもらい、笑ってもらい、幸せ感を届け、新しい自分を発見できる楽しいサークルです。」

演劇に興味のある方、あるいは演技者だけでなく裏方希望でも結構です。横山文具店にお越しく下さい。

毎年、子どもの日大会に児童劇を、文化祭に町民向けの劇を演じています。特に、子どもの日大会ではスタッフ以上の働きをしていただき、ただただ感謝の言葉しかありません。台本も昔話などを参考に自分たちの手づくり、大道具も手づくり。音楽や効果音などもあって、まさに演劇は総合芸術です。その大変な取り組みを40年以上も継続してこられた熱い思いに頭が下がります。

今後とも、よろしく願いいたします。



↑ リハーサルのあとのミーティング。真剣な表情で演技をふり返ります。この日は、厳しいダメ出しは出ませんでした。(ホッ！)

訂正! 前号のみじよかの練習日は**毎週水曜日**の間違いでした。

ヤマカンの四方山話(よもやまぼなし④)

長生きの秘訣・・・一、十、百、千、万

福岡に住む知人のお父さんは、今年94歳。少し足が弱くなっていますが、頭も内臓関係も健康で、百歳目指してますます元気です。これまでのご自分の経験から、「長生きの秘訣・・・一、十、百、千、万」というのを考えられ、広告の裏紙などに直筆で書いて知り合いなどに配っているそうです。

その紙を見せてもらいました。その紙には、こう書かれていました。

- 一、一日に一回は自分のことをほめる。
- 十、一日に十人の人と話す。
- 百、一日に百回深呼吸をする。
- 千、一日に千文字書く。
- 万、一日に一万歩あるく。



なるほど、どれをとっても健康に良いことばかりです。自分をほめることは自己肯定感につながり、人と話すことは人間関係につながります。深呼吸は気を静め、書くことは脳の活性化を促します。歩くことは足腰を鍛え、老いを遠ざけることにつながります。実行していけばこころと頭と身体はリフレッシュされ、長生きできそうです。一、十、百、千、万という単位で表したところに、このお父さんのユニークさを感じます。



「お前も、これ見て実行しろ。わしのように長生きするぞ。」
と知人に迫ってくるので
「おやじこそ、実行できよとね？」
と聞き返したところ

「いや、最近はやや難しい。」
と答えた後、こんな話を付け加えたそうです。
「実行できるかどうかよりも、実行しようと努力する過程に意味がある。たとえば高校球児たちも、甲子園出場を目指すプロセスにこそ意味があるのじゃ。」(なるほど・・・)
もしかして、このお父さんの長生きの秘訣は、ユニークさとおおらかさにあるのかもかもしれません。 ※写真は、笛吹在の老人会の様子です。

のべ13628、一人当たり5.3

またしても数字です。前は、図書館の貸し出し冊数でした。今回はというと・・・ズバリ離島開発総合センターの昨年度の利用者数です。町民一人当たり、5.3回利用したことになります。この数字いかがでしょうか。

月ごとに見ると、10,11月が一番多く次に2,3月が利用されています。さまざまな行事、イベントがこの時期に数多く開催されているからでしょう。町民の皆様の生涯学習の砦としてのセンターです。また町民の貴重な財産です。グループでサークルで各地区で、今後ともどしどしご利用ください。

